

予算決算委員会総務文教分科会会議記録
(補正予算審査)

1. 開催日	令和3年2月8日(月)
2. 場 所	議員協議会室
3. 出席議員	渡辺拓道座長、大上和則副座長、原田豊彦委員、 隅田雅春委員、安井博幸委員、足立義則委員、 森本富夫議長
4. 欠席議員	なし
5. 会議に付した事件	・議案第6号 令和2年度丹波篠山市一般会計補正予算(第13号)
6. 議事の経過	<p>渡辺座長 開議宣告、開議</p> <p>■監査委員事務局 日程第1 議案第6号 令和2年度丹波篠山市一般会計補正予算(第13号)</p> <p>【主な説明】 補正予算書に基づき説明</p> <p>【主な質疑】 隅田委員 監査委員費について、今年度は新型コロナの影響で、委員会の県外視察はできませんでしたが、コロナ禍の中、オンライン会議等が開催されています。監査委員会では、オンラインでの会議等をされたのか、伺います。</p> 監査委員事務局 令和2年度におきましては、オンライン会議は実施しておりません。全国、近畿、兵庫県単位での総会や研修会等があるんですけども、全て書面会議という形で今年度は開催をいたしました。 安井委員 今後このようなコロナ禍の状態が続いていくと、Zoom会議のような方法での会議の必要性はあると思います。そういうことに対して監査委員事務局としても対応いただかないといけないんじゃないかと思うんですけども、そういった予定、また見解を伺います。

監査委員事務局 当局におきましては、監査委員事務局、並びに公平委員会事務局等を所管しております。監査委員事務局におきましては、オンライン会議について県下での全市的な議論は、今のところございません。ただし、公平委員会におきまして、県下におきましてもオンラインを活用して会議を開催すべきではないかという議論にはなっておるところです。今後におきましては、年に数回ある会議のうち、幾らかはそういうオンライン会議をして、あとは顔を突き合わせて会議をする必要もあるんじゃないかというところで、段階的なオンラインということになっていくんじゃないかという感じで考えておるところです。

■企画総務部

日程第1 議案第6号 令和2年度丹波篠山市一般会計補正予算（第13号）

創造都市課

【主な説明】

補正予算書に基づき説明

【主な質疑】

隅田委員

ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動推進事業について、若者定住住宅補助金が124万円、また空き家活用事業では、空き家改修補助金が226万7,000円の増となっています。私の周りにも小多田に移ってきたとか、栗柄に移ってきたとか、そういう話を聞いたりするんですが、大変多くの方が篠山に関心を持ち、移ってきてもらっているのかなという気がするんですが、その辺りの現状などをもう少し詳しく説明できるのであればお願いしたいと思います。

企画総務部

現在の移住者の状況ですが、1月末時点で既に昨年度の移住実績を超えているという状況になっております。相談件数につきましても、昨年度の1月末時点と比較しまして、2.24倍となっております。また移住者につきましても、こちらは12月末時点の数になりますけれども、昨年度末で29世帯70人の移住実績だったんですけれども、今年度既に38世帯101人の移住実績となっております。こちらは暮らし案内所を経由した移住者のみとなっておりますけれども、移住実績も相談も増えているという状況になっております。それに伴ってだと思っておりますけれども、空き家活用の補助金の問合せ、また活用し

たいという相談が11月、12月ぐらいから増えておりまして、今回、3月補正で増額の要求をさせていただいています。

隅田委員

大変うれしい数字を言っていただきましてありがとうございます。移住された方の声などがあつたらお聞きしたいと思うんですが、都会で飲食店をやっている、自分で安心のできる米をつくってそこで販売もしたいから来た、また福知山の人が大阪等に通勤したりするのに近いから、便利だからということであつたという話も聞いたりするんですが、今特に新型コロナを受けての移住の声が大きくなってきたということで、際立つというか、特色のあるような声等、また移住の目的の理由があれば教えていただきたいと思います。

企画総務部

暮らし案内所にいただいている移住者や移住希望者の方の声といたしましては、特に子育てをされている方からの相談が増えているというような状況であります。都市部でテレワークなどをされるという場合になったときに、もう少し広い居住空間、もう一室仕事部屋が欲しいというようなお話などがありまして、都市部ではやはりそういう物件が少ないということで、通勤圏内である篠山口駅まで探しておられるというような声を聞いております。これがコロナで新しく出てきたニーズではないかと思っております。また、そういった方につきましては、これまでの生活パターンを余り変えない形での移住を希望されているので、移住したいエリアにつきましても駅近でスーパーや学校などがあるところを希望されている方が多いという傾向がございます。また別途、これまでも田舎暮らしに憧れていたんですけども、これを機に一気に計画を早めましたという方がありまして、そのような方につきましては、農村、いわゆる東部地域ですとか古民家などを探して、移住されているという形で、二つのパターンに分かれてきているという、現状としてはございます。阪神間からお越しになっているということは、余りこれまでとは変わらないんですけども、年齢層が少し若返りまして、今までは相談が35歳ぐらいからで、実際移住される方が45歳ぐらいまでの方が多かったんですけども、今は30歳前後の方からの御相談で、実際に動かれる方が35歳ぐらいと少し若返ってきているというのが、現状としては感じているところです。

安井委員

昨年と比べて、非常に移住定住が増えていることはわかったんですけども、空き家の供給などに課題はないのでしょうか。

企画総務部

市の登録物件につきましては、前年度と同じくらいのペースで空き

家の登録は進んでおります。ただし空き家の所有者の方が、コロナで相談に来にくいということがありまして、なかなか登録事務が進まないということはあるのですが、今のところ同じくらいのペースになっております。なお、今年につきましては、業者さんの紹介物件の登録が増えておりまして、市内の不動産屋さんにお聞きしましても、非常に忙しい、相談も問合せも多く、契約も多いと聞いております。空き家バンクについても同じくらいのペースなんですけれども、コロナ禍で賃貸を希望される方が多いのですが、市内には戸建ての賃貸の数が少ないということがありますので、なかなか御希望に応えられないと市内の不動産屋さんから聞いております。

渡辺座長

定住関係の部分で、本当に私もニーズが増加してきているというのは、実感として感じております。ただ、なかなか市民センターでの相談や、あるいは不動産屋さんでもなかなか物件がないという声があって、出ていない物件はないかという声を去年の暮れから複数聞かせていただいて、紹介したこともあったりします。ニーズがあるのになかなか応えられていないということと、もう一方でその地域の推進員さんなどの活動が少しくまいていないところがあって、物件の掘り起こしを追加する必要があるのではないかと感じているんですが、具体的な追加の動きなどの検討はされているんでしょうか。状況をお聞かせ願えたらと思います。

企画総務部

ニーズが増えているにも関わらず、物件が不足しているということについては、以前からの課題になっておりまして、先ほども説明しましたが、定住促進員さんやその地区リーダーの方にお問い合わせするなど、努力はしてきたつもりでございます。ただ、相談をされる方とのマッチングというか、どうしても利用されようとする方は安くて、条件がよい場所で、なおかつ賃貸のほうが良いというような方もたくさんいらっしゃいますし、一方で売られる方につきましては、もうこの際全部売却をしたいというような御希望もあるんじゃないかと思っております。そういう意味では、ミスマッチが起こっているというのが一つ、物件不足の大きな要因ではないかと思っております。そうした中ではあります。空き家の登録件数等につきましては、それに占める地元から出てきていただいている数というのが、数件ですけれども、前年よりは上回ってきているということもございますので、来年度に向けましては、定住促進員さん、地区リーダーの方々とも連携をしながらやっていきたいと思っております。特にそれぞれのまちづくり協議会の中

で、いろんな目標のようなものを決めていただいて、皆さんがそれに対してこう進んでいくということにつきまして、村づくりとも関連させながら、来年度には新規事業として取り組めたら、そういう一步を踏み出せたらと思っております。直接それが空き家の物件情報の増加につながるかどうかは、少し長い目で見ないといけないと思うんですけども、そういう村づくりを通じてやっていきたいと考えておりますので、またアドバイスいただけたらと思っております。

渡辺座長

わかりました。課題として認識いただいておりますが、ニーズがあってもなかなかうまくマッチングが出来なくて、逃してしまうというは少しもったいないという思いもありますので、もう少し一步踏み込んだ掘り起こしをお願いできたらと思います。

次に官学地域連携事業について、学生等による地域貢献活動推進補助金を減額するということですが、定住する人が丹波篠山に非常に目が向いて来ていると感じておりまして、その傾向はやはり学生さんについても、非常に学習フィールドとして丹波篠山市を認識していただいていると感じているところでございます。ただ、その中で当市が用意している学生さんが勉強できるような環境づくりといえますか、その辺りについて、この際もう少し考えたほうがいいのかということがあります。昨日も大学の先生と学生さんと話をする機会があったりするんですけども、活動の目的地までの移動に課題があるということで、先生も自分が乗せて行かないといけないということもあります。駅までの公共交通は十分あり、駅からはレンタカーやカーリースなどの仕組みがあるので、その利用のハードルを下げるとということも一つ考えられるのではないかと昨日も話をしたんですけども、官学地域連携、いわゆる学生さんのここでの学びについて、大きくそういうニーズが増えてきていると思うんですけども、担当課ではどういう認識を持たれていて、それに対して、こういった形で補助金を減額するのではなく、何かもっと積極的に活動を大きくしていこうというような認識は持たれているのでしょうか。

企画総務部

まずこの学生等による地域貢献活動推進補助金について、丹波県民局の土木事務所と連携する中でこの事業を動かしております。具体的には、丹波篠山市で令和2年度に7団体の活動を認定させていただきました。市としては1団体当たり交通費、宿泊費等を中心に10万円、県民局さんも10万円出していただいておりますので、1団体当たりの活動が20万円という形で、市内で今7団体140万円の金額で動い

ているということでございます。例えば西紀南地区のにしき恋さんですと、神戸から毎週のように7、8人の方が来ていただいております。会員数も200人近くいらっしゃるという中で、神戸からの旅費についてこれを充当していただくということになっております。実際には丹波大山駅から黒田のほうまで歩いて行かれていますという状況でございますし、また地域のリーダーの方々が送迎されるケースもあると聞いております。そういったものに使っていただけるようにということでこの20万円を用意させていただいているわけですが、今回の補正ではそのうちの1団体が、学校の対外活動の自粛など、そういったことがずっと続いていた関係で、どうしても年度末までにそういう活動が出来ないということで、取下げをされたというのが実態でございます。今後につきましてはその移動手段の確保、特に市内の移動については、これまでやはり地域の方々の送迎などでお世話になっていたり、市内のMランドさんに御協力をいただいております、ボランティア的にやっただけということもでございます。これに加えて移動の部分の金額を増額できるのかどうかというあたりにつきましては、少し検討していかないといけないのではと思っておりますが、そういう市内での移動というものが、丹波篠山市の場合は非常に重要になってくるということは認識をいたしております。昨年度については、にしき恋さんが全国表彰されたということもございまして、岡野のアグロックさんについては、今年度、近畿経済局長の表彰も受けられているということで、非常に活発になってきておりますので、そういう支援、ニーズ等につきましても、検討しながら、フィールドステーションに駐在されているリーダーとなる先生もいらっしゃいますので、そういったところと連携を密にしてやっていきたいと考えております。

大上副座長

移住の相談が多いというのは非常に喜ばしいことだと思うんですけども、私も昨年から移住したいという方の相談を受けていて、物件があっても紹介できる物件がないんです。これは結局登録されていないことが原因だと思います。地区の方に聞いたら、空き家等の情報を知っている方もおられます。おられるんですけども、結局その方がまちづくり推進員などと連携していないとなかなか丹波篠山市内で住みたいという人にはそういう物件を紹介できないんです。ですのでその情報を知っている方と地域の推進員みたいな人がもう少し連携がとれるような、情報が共有できるような体制に出来たらもっと移住者

の方にそういった情報が出しやすいような仕組みができるのではないかと思うんですけれども、その辺りは今後どういうふうなお考えを持たれていますか。

企画総務部

昨年10月に定住促進員さんの会議をさせていただきました。そのときに皆さんに各地区の中で空き家の状況はどうですかとお伺いすると、紹介できるかどうかともかくとして、それぞれの自治会の中でこの家が空いているとか、この家は空いているけれどもお付き合いがあるとかということは、皆さん非常にきめ細かく御存じだったということが印象に残っております。ただ今おっしゃっていただいたように、いろんな情報を知っている方がそれ以外にもたくさんいらっしゃると思います。そういう意味では、思いついたようなことで恐縮なんですけど、定住促進員さんそのものが地域の中で御存じいただけているかどうかということもあるかと思しますので、そういう方々を広報紙で取り上げるとか、そういったことをしながらやっていけるのが一つの方策ではと、今、副座長のお話を聞かせていただいた中で感じたところでございますので、ぜひとも参考にさせていただきたいと思っております。

安井委員

ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動推進事業について、特急回数券購入補助金が59万円減額なっているんですが、それは予定の何割ぐらいの減あたるのか。また来年度もこれぐらいの割合で、特急回数券利用購入補助金の利用の方が減っていくのではと思うんですけれども、その辺りの見解をお伝えください。

企画総務部

特急回数券の購入助成につきましては、基本的には篠山口、あるいは相野から大阪、新大阪につながっております特急の回数特急券という制度がございまして、4枚つづり2,720円で販売しているものがありますが、それを購入いただいて乗車いただくという形になっております。今回につきましては、減額の対象期間は令和2年4月から9月ということで、減額の主な要因は利用者が減った。要するにコロナで通勤の方が減ってしまったということが大きな要因でございます。後期についても同様のことが考えられるかと思うんですけれども、現在のところでは上半期の分だけの実績から今回の減額に至ったということでございます。来年度以降の取組でございますが、先ほど申し上げました紙でつくっている回数特急券自身が、実はこの4月から販売が中止になります。その代わりとして、有利なものがネットで販売されるということになります。そういったことから市としては、この制度が一定の役割を終えたのではないかとということで、JRさんが独

	<p>自の努力をされるほうにシフトしていきたいと考えているところでございます。</p>
企画総務部	<p>当初前期分として、162万円を予定しておりました、実際約103万円になっておりますので、6割ぐらいの執行率となっております。人数自体が減ったというよりは1人当たりの使用枚数が減ったということになっておりました、おそらく出勤日数が減ったためだと思われるんですけども、大体お一人、前期の半期で6冊ぐらい買われるんですけども、1冊、2冊という方が結構ありましたので、そういった形で金額的には減っていったのではと考えております。</p>
隅田委員	<p>公共交通対策事業について、兵庫県地域公共交通Maas推進協議会はどのような事業をされているのか、説明をお願いします。</p>
企画総務部	<p>兵庫県地域公共交通Maas推進協議会は令和2年度に設立されましたが、目的としましては、市内の自治体が運行していますコミュニティバスのダイヤを検索できるシステムの整備、維持管理になります。標準的なバス情報フォーマットをオープンデータ化するということになりますので、利用される方がコミュニティバスのダイヤを検索できるシステムを構築するというのが主な事業目的になります。</p>
安井委員	<p>市単独バス対策等補助金が約320万円減額になっておりますけれども、便数としてはどのぐらい減ったのか。便数が減ったことによって補助金が減額になると思うんですけども、それによって地域の方にどの程度の影響が出ていると考えたらいいのか、その辺りを教えてください。</p>
企画総務部	<p>神姫グリーンバスの減便について、昨年5月の連休明けから5月末までも間、平日ダイヤを全て土日休日ダイヤに変更したということになります。それほど減っていない路線もありますし、かなり減った路線もありますけれども、もともと便数があまり多くありませんし、お客さんの利用が減っている時期でもありましたので、影響が余りなかったと聞いております。5月の期間だけの減便という措置で、今は現状のダイヤに戻っております。</p>
安井委員	<p>乗合タクシー運行補助金も約60万円減っていますが、それも先ほどの路線バスと同じような理由で減便になったと考えていいんでしょうか。</p>
企画総務部	<p>乗合タクシーについては火打岩線の1路線だけですが、昨年度までは定時定路線でずっと運行していたものを、空車の状況で走っている便数が多かったので、それを地元の運営協議会等と協議をしまして、</p>

デマンド運行に変更しました。もともと100%定時定路線で運行していれば、これだけ掛かったというものが、デマンド運行になると必要に応じて運行するということとなります。コロナの影響で外出を控えられたということもあろうかと思いますが、そういった要因で運行回数が減ったことによる減額補正になります。

隅田委員

ふるさと大使事業について、この制度が出来てそこそこ長い年月が経ってきたと思うんですが、長年、例えば5年ぐらい活躍の場がないといった大使がおられるのか、またそういうことがあれば、ある節目で卒業といいますか、そういうことも考える必要があるのではないかと思います。現在の登録者数と大使の活躍の状況などについて説明をお願いしたいと思います。

企画総務部

現在3組16人にふるさと大使をお願いいたしております。これまでも既に10年近く経ってきているということで、何年かに1回、近年で言うと2年ほど前になると思いますけれども、ふるさと大使の活動をこちらからもお願いしている関係もございますので、卒業という形ではなく、今後も引き続きお世話になれますかというようなことの打診をさせていただく中で、一部、そろそろこのあたりで辞めたいというようなお声もあった方につきましては、委嘱を継続していないところもございますが、おおむね皆さん協力的に活動していただいておりますので、その方々については、引き続きお願いをすることと取り組んできております。4月に向けて市長からも出ておりますけれども、千葉ロッテに入団されました中森さんにも正式にお願いをしていきたいと考えているところでございます。

企画総務部

3年に1回、委嘱の継続について意思確認はさせていただいております。来年が3年目になりますので、また意思確認させていただくようになっております。2年前は、2名の方が継続をしないということでしたので、この方については委嘱を取り消させていただきまして現在の人数になっております。市のイベントなどに来ていただくことが基本的には多いんですけれども、自身の活動の中でも丹波篠山市のPRをお願いしておりますが、コロナの関係もありまして、実際に丹波篠山市に来ていただいているPR機会もなく、またタレントの方ですとイベントへの出演が減っているということもありましたので、今年は余り活躍をしていただくことが出来なかったんですけれども、またぜひ行かせていただきたいという声も大使さんからは聞かせていただいておりますので、今後も活躍いただけたらと思っております。

渡辺座長	企業振興・誘致促進費について、雇用促進奨励金が減額になっている理由をもう少し詳しく説明いただけたらと思います。
企画総務部	企業振興・誘致促進費の雇用促進奨励金につきまして、減額をさせていただいているものにつきましては、昨年度交付条件が未達となったことから、1件については次年度に奨励措置を先送りになったものと、申請の条件が未達となったために、申請そのものがなされなかったもの、この2件が減額の中身となっております。
渡辺座長	2件の未達の影響での減額ということで理解させていただいたんですけども、あくまでも市としては企業振興を進めてきているわけですので、その未達に対してのサポートはそれぞれされたという理解でよろしいでしょうか。
企画総務部	企業さんにも説明させていただいた上で、そのサポート的なところについては、やりとりをした結果、申請されない。または年度を繰り越されたというような状況でございます。
渡辺座長	企業さんに寄り添った活動をしていただいているという理解でよろしいですか。
企画総務部	はい。

総務課・秘書課

【主な説明】

補正予算書に基づき説明

【主な質疑】

隅田委員	電子計算費について、RPA運用にあたり職員への研修を予定していたが、担当職員が個別対応したことにより、研修委託料を減額するという説明でしたが、職員研修費の市町村アカデミー等については、そのような説明はなかったんですけども、例えば若手職員が本来受けるべき研修が受けられなかったとか、またそれはこういう形でカバーしたとか、そのあたりはどのようなようになっておるのでしょうか。
企画総務部	市町村アカデミー、また国際文化研修所につきましては、毎年職員を受講させたい人数を計画しています。ただし今回につきましては、コロナウイルス等々の影響もございまして、派遣を控えたことと、もう1点は、その代わりに内部講師についての研修も企画をしました。来年度については、今のところ両研修所とも例年同様のカリキュラム

を組んでいるということを知っておりますので、目標を持って送り込みをしたいと考えております。また内部研修につきましても内部講師、また公的な機関からの講師等々を積極的に活用しまして、効率的な研修を積極的に行っていきたいと考えています。

安井委員 広報紙広告料について、コロナ渦の中、事業者が広告費を節減したことで、広告料収入が約26万円減ったということですが、これは半年分の広告料の減額と理解していいのでしょうか。

企画総務部 半年分の6回分になります。

安井委員 減ったのは1社でしょうか、複数社でしょうか。

企画総務部 1社になります。業種は旅行業になります。

■議会事務局

日程第1 議案第6号 令和2年度丹波篠山市一般会計補正予算（第13号）

【主な説明】

補正予算書に基づき説明

【主な質疑】

安井委員 議会費の減額分は、コロナウイルス等感染症対策基金に積立てられるのでしょうか。

議会事務局 今回の補正予算につきましては、市全体の一般会計の中での歳出の減額ということで、その調整につきましては財政課で行っていますので、この後の財政課の審査の中で、コロナ対策基金についても説明があると聞いています。

■行政経営部

日程第1 議案第6号 令和2年度丹波篠山市一般会計補正予算（第13号）

財政課・管財契約課

【主な説明】

補正予算書に基づき説明

【主な質疑】

安井委員 公共施設整備基金費について、補正額が405万9,000円の増となっていますが、それは不動産売払収入で住吉台の市有地と言われていましたが、そのことを示していると理解していいのでしょうか。

行政経営部 おっしゃるとおり、不動産売払収入を積立てておりまして、充当予定していない不動産の売払については、公共施設整備基金に積立てているところです。

隅田委員 ひょうご地域創生交付金の充当先について、追加事業採択による増ということで、地域整備課が担当する有居ゆめ広場遊具設置費が挙がっていますが、たしか以前、補正予算に遊具の購入費として820万ぐらい上がっていたと思うんですが、それにはもともと設置費が計上されていなかったと認識したらいいのか、それともひょうご地域創生交付金を充当するから、財源を入れ替えるのか、財政課でわかりますか。

行政経営部 遊具の設置につきましては、以前の補正予算で歳出予算は全額計上させていただいております。今回、297万2,000円のプラスということですのでしておりますけれども、こちらについては工事費に対して、基本的にひょうご地域創生交付金は2分の1当たりますので、本来でしたら400万円程度当たるんですけれども、内示が下がっておりますので、今回充てさせていただいているのが約300万円余りということです。事業としては歳出予算で全額800万円余り組んである、その財源として、300万円余りを見込ませていただいたということでございます。

■教育委員会

日程第1 議案第6号 令和2年度丹波篠山市一般会計補正予算（第13号）

学事課・学校教育課・教育研究所

【主な説明】

補正予算書に基づき説明

【主な質疑】

隅田委員 学校管理費について、市役所の本庁舎は新電力会社と契約されていますが、小中学校の電気は関西電力と契約されているのでしょうか。

教育委員会

本庁と同じように新電力会社を使っておられるのでしょうか。

1年間の使用実績がないと新電力会社は契約に向けた見積提案が出来ないことから、昨年度に新しくキュービクルを設置した学校につきましては、関西電力と契約しています。なお、今年度も特別教室への空調設置を進めておりますので、今年度の使用実績を踏まえた上で、再来年度以降の契約においては、新電力会社より契約に向けた見積を提案いただけると考えております。

渡辺座長

学校教育充実事業や教育研究所事業費にもあったと思うんですけども、協力者謝礼ですが、コロナの影響があつたりして、カウンセラーなどのいろんな相談員の業務が縮小という説明をいただいたわけでございますけれども、実際、サポートが必要な児童生徒や、あるいは学校運営等に対するサポートは大丈夫なのか心配もするところです。別の方法でサポートされたり、工夫された部分があり、大丈夫だという状況ということでしたら御説明願いたい。

教育委員会

新型コロナの影響によって、いろんな形で講師さんに篠山に来ていただくのが難しかったりしましたが、予定している研修や子どもたちのサポートに関わる巡回相談などについては、日程調整をした上で、きちっと行ってきたことによって、特に問題ないということを進めてきております。

大上副座長

体験教育推進事業のトライやる・ウィークの件について、今回、コロナの影響によって実施期間が5日間であったのが1日という短い期間になったり、校外での受入れが難しくなったというお話はよく理解できますが、最近の傾向として、その地域の中で、その事業所自体が毎年、手を上げて受入れられている状態であるのか、それとも減っているのか、また新規の受入れ事業者が出てきているのか、傾向としてどんな感じになっていますか。

教育委員会

傾向としましては横ばい傾向にあります。減少しているということはありません。新たに受け入れていただける事業者もあります。ただ、子どもたちの数が減ってきていることもあって、受入れはしますというお声はいただいているのですが、子どもたちの希望とうまくマッチングせず、最終的に受け入れ事業所が限定されてしまうという実態があります。今年度はトライやる・ウィークが実施される以前にやっていたような方法で、例えば地元企業に学校に来ていただいて、講演や実演等していただけるような機会を設けた学校もありましたし、受入れが可能であると言っていたいただいた事業所には1日という限定ではあ

りましたけれども、企業を訪問させていただいたという学校もありましたので、制約の中ではありましたが、可能な範囲で実施したという状況です。

社会教育課・文化財課

【主な説明】

補正予算書に基づき説明

【主な質疑】

隅田委員 社会教育使用料について、新型コロナの影響で歴史4館を休館されたということで、管理をウイズささやまにお願いされていると思うんですが、その人たちの処遇というのは、その間休んでいただいていたのか、清掃などのほかの仕事をしてもらったのか、その人たちの収入はどのように保障されたのか、その辺り説明をお願いしたいと思います。

教育委員会 歴史4館ですけれども、ウイズささやまに指定管理をお願いしております。臨時休館中、開館しているときとほぼ同じように正職員の方は出勤されております。臨時休館により、受付業務がなくなっておりますので、資料の整理業務であったり、年間通してする点検業務だったり、管理業務をしていただいております。ただパートさんですとか、そういった方は、交代で休みをとられたと聞かせていただいております。

渡辺座長 文化施設管理費について、実際お客さんが入らなかったとしても通常の業務以外の管理業務等々が発生しているのではないかと思うわけございまして、その期間の指定管理料をこういった形で減額するというのは、どういう根拠によって減額をされているのでしょうか。

教育委員会 臨時休館の間、普段つけている照明の電気代や空調代など、そういったものが不要となっていますのでそういった部分、また展示室の清掃などの減ってきている業務について、精査させていただいて委託料を減額したということです。

渡辺座長 その期間の指定管理料を年間の指定管理料で案分して、そのまま減したということではなくって、その間、入館がなかったら不要となるような業務に対して精査したという理解でよろしいですか。

足立委員 施設維持管理費についてのいわゆる委託料の減額はわかりますが、

教育委員会	先ほどの話にもあったパートさんの人件費分もこれに含まれているという解釈でいいのか、それはないという解釈でいいのかどちらですか。
渡辺座長	人件費の減もこれに含まれているということです。大書院の人件費につきましては、約14万円減額されています。
教育委員会	パートの方への収入面への支援に対して、活用できるようなメニューは何かあったということですか。
渡辺座長	ウイズささやまから国の支援策などは使用してないと聞いております。
教育委員会	指定管理者も払っていないということでしょうか。
教育委員会	指定管理者も、その分はパートさんに対して支払っていないということになります。

東部学校給食センター・西部学校給食センター・中央図書館・田園交響ホール

【主な説明】

補正予算書に基づき説明

【主な質疑】

隅田委員	学校給食センター管理費について、今回、新型コロナウイルス感染対策も含めて自然災害、人為的災害等の学校給食が提供できない事態を想定して、非常時給食を購入するとのことですが、これまでの備蓄とどう違うのか、その辺りもう少し詳しく説明お願いしたいと思います。
教育委員会	これまでは長期保存用のパンということで、主食のみであったんですが、やはり栄養バランス等を考えまして、主食と主菜がセットになったものを用意するというので、今回その違いがございまして。
隅田委員	それは1食いくらぐらいですか。また保存期間はどのぐらいなのか、説明をお願いします。
教育委員会	見積りでは、1食税抜で370円になっております。保存期間につきましては、製造から3年間ということになっています。
渡辺座長	備蓄は何食分になりますか。
教育委員会	東部1,900食、西部2,200食、計4,100食を災害のあった日とその翌日の2日分を計上させていただいております。できるだけ速やかに弁当対応ということに移していきたいと考えております。

安井委員	その備蓄された食品というのは、3年の賞味期限というか、保存期限が切れる前に、更新していかなければならないと思うんですけど、更新前には給食か何かに利用されるのでしょうか。
教育委員会	保存期間が3年となっておりますので、保存が切れるまでに通常の給食で、また防災訓練の一環などで使えたら一番いいんですが、そういう形で使用させていただこうと思っています。もちろんそれまでに、入れ替えますので新しいものを購入しておくということになります。
原田委員	学校給食センター管理費について、東部と西部で燃料費の減額にかなり差があるんですけども、その要因について説明いただきたいと思います。
教育委員会	西部は灯油を燃料としておりまして、当初、単価83円で積算しておりました。ところが今年度、原油価格が低価で安定しており、平均55円で推移していきまして、その差がかなり大きかったということでございます。東部は重油を燃料としており、その差も大きいということです。
隅田委員	石川さゆり公演がさらに延期になり、年度を繰り越すということなんですが、「麒麟がくる」が終わり、この事業は縁がなかったということで、取りやめとかそのような議論というのはなかったのでしょうか。
教育委員会	公演が来年度になりますと、2回目の繰越しということになるんですけども、中止ということも選択には入れていまして、先方とも相談をしました。ただ、中止となると全くゼロでということにはなりません。話合いでかなりの出演料を払ってほしいという話も出ましたので、金額に関してはまだ確定ではないんですけども、そういった話合いもしなければならぬ。もう一つは、13時と17時の2回公演で各800席中700席が売れていまして、払戻し後、今のところ450席ずつ残っていて、「麒麟がくる」が終わっても皆さん期待していただいているというところで、何とか「麒麟がくる」が終わっても実現していこうということで、いろんなことを悩んだんですけども結局、延期という方向で行かしてもらおうと考えております。
大上副座長	交響ホール市主催事業費について、「キュウソネコカミ」ですが、丹波篠山市の子がバンドのメンバーに入っていて、非常に活躍してほしいと個人的にも思っているんですけども、彼らの楽曲は割に乘りのいい曲で、若い方のファン層が多いと思うんです。次年度に再度開催を予定されるということなんですけれども、感染症対策はしっかりされると思うんですけども、演歌のように座って、おとなしく聞いて

いるような雰囲気でもないと思うんですけども、その辺り留意している点があればお伝えいただきたいと思います。

教育委員会

当初は2月に開催する予定で、コロナ禍の中でもどうしようかと先方と話をしたんですけども、50%でもやろうかという話も出ていました。ただ実際ライブハウスでも実績がありまして、騒がない、座ったままでということとされているんですが、先方からの要望で、やはり地元の篠山で開催する限りはやっぱり皆さん喜んでもらえるような状態でやりたいということで、何とか新年度にならないかという相談もありまして、新年度に回そうという判断したんですけども、来年、今のところは仮で6月に予定を上げてもらっています。6月になれば、また、その辺の情勢を見ながら、50%でやるのか、座ったままのおとなしい形で開催するのか、それがもう十分大丈夫ということになれば、できるだけ100%入れてやりたいと考えております。6月の時点でもまだ先が見えなければ、またさらに延期ということも柔軟に対応していきたいと考えております。

大上副座長

例えば延期になって、チケットの払戻しになった場合、その席は空席になると思いますが、それをまた新たに売り出す方向になっているのですか。

教育委員会

例えば石川さゆりさんの払戻しの場合は、去年の3月に開催する予定で払戻しをさせてもらいましたので、取りあえず払戻しをし、8月の公演をするということも言っていましたので、その空いたところをまた再発売するか、そのままするかというのを検討していこうということにしておりました。8月もやっぱり無理だということになって、そのまま払戻しも続けたんですけども、3月の状態をどういうふうにするかというのをまた情勢を見ながら検討することとしておりました。3月の公演が近づいてきて、100%入れられるようであれば再発売をしていこう、持っていらっしゃる方はその席でと考えておりました。もし50%ですということになれば、今持っていらっしゃる450席が400席まで減れば、それですということになっていけば、もう一度皆さんに電話して、席を1席ずつ空けて、こちらで席を決めさせてもらって、その中で広げていくというパターンを考えておりました。実際それを去年の9月の古澤巖さんのコンサートで行いました。お客さんの席が真ん中にぐっと固まっていたんですが、400人以下でしたので、この席でお願いしますとお一人ずつ連絡させていただきました。おかげさまで苦情も来ず、開催できたという経緯もあり

ます。

渡辺座長

図書館管理運営費について、図書コーナーのブックサポーター活動人員の減により、協力者謝礼が減額になるとの説明ですが、ブックサポーターの制度が出来て、もう10年以上になるという思いを持っているんですが、皆さん当初、非常に好意的に参加してもらった方が高齢になってくる中で、人数も少なくなってきていて、実際の運営に課題が出てきているのではと思っています。広報等で募集していただいていることは承知しているんですが、実際、高齢の方もコロナで外出も気になるということで、運営が難しくなっているのではと思うんですけれども、その辺りの実情だけ説明願えたらと思います。

教育委員会

図書コーナーのブックサポーターの件でございますけれども、平成21年からこのブックサポーター制度で、ボランティアにお世話になっております。当初、約100人のボランティアの方がおられたんですけれども、年々減ってまいりまして、令和元年度には48名まで減り、現在、実際に稼働しているのは36名の方となっております。午前2人、午後2人の2組で、窓口をお世話になるわけなんですけれども、そういう配置も今なかなか難しくなって、1名でお世話になっているケースも出てきております。図書館ビジョンでも、ブックサポーター制度につきましては、10年経てば一度検証して、そのあとのことをまた考えるようになっておりましたので、本年度、その辺りの見直しに向けての検討もしてまいりました。来年度については、当初予算でお願いすることになるかと思いますが、来年に向けて現在、ブックサポーターを一旦閉じさせていただいて、来年度は新たに中央図書館主体の運営に見直していくことも今検討している最中でございます。今までこのサポーターの皆さんの御協力があったおかげで、この図書コーナーの運営ができてきたことに本当に感謝を申し上げながら、来年に向けての検証をしている最中でございます。

教育委員会

市民センター図書コーナーの運営については、図書館協議会やささやま図書館友の会からも御要望を聞いております。そういった点も踏まえて、今館長申し上げましたとおり、来年度において幾らか、十分とはいかないかもしれませんが、これまでお世話になった皆さんの思いもつなぎながら、市で運営する市民センター図書コーナーとして、ある程度の体制を整えていきたいと考えております。幾らか当初予算で計上もしておるところでございますので、これまでお世話になった皆さんにも、これから何とか図書館の新たなサポーターとして

お世話になれないかというところも今検討しているところでございますので、現時点の御報告としては、よりよい形でつないでいきたいという思いでございます。

教育総務課・こども未来課

【主な説明】

補正予算書に基づき説明

【主な質疑】

隅田委員

児童福祉一般事務費について、ひょうご保育料軽減事業補助金を増額するとのことですが、3月に補正が上がってくるということは、新しい制度でしたでしょうか。継続事業であれば、大体の園児数を当初予算で見込めると思うんですが、3月に増額補正する理由の説明をお願いします。

教育委員会

ひょうご保育料軽減事業につきましては、前年度からの継続事業になっています。令和2年度の当初予算積算時には、令和元年度の園児数や市民税課税状況によって積算していますので、当初予算積算時では、確かな人数を把握することは困難です。また、9月にも市民税課税状況等によって保育料を算出し直すため、今回の補正予算で要求させていただいています。

■議員協議

渡辺座長

議員間で議論・確認等をしておいた方がよいこと等があれば、発言願う。

— 意見等なし —

— 市長等への質問等なし —

■意向確認

議案第6号 令和2年度丹波篠山市一般会計補正予算（第13号）

— 修正・反対等の意見なし —

渡辺座長

この結果を含め、各委員との質疑、答弁の内容について、座長報告

を行いたい。報告については、座長に一任いただきたい。

また、本日の会議の記録については、事務局に調製させ、座長、副座長において内容確認を行いたい。

— 異議なし —

渡辺委員長 散会宣告、散会